

学校の先生と画家、二足の草鞋を履く生活

森脇さんは、5歳から絵画教室に通い始め、愛知県立旭丘高等学校美術科に進学。高校卒業後は、多摩美術大学に進み、大学卒業と同時に縁あって教員として愛知県で働くことになりました。初めての赴任先は春日井市の小野小学校。美術専任の教員をされていたのかと思いきや、「小学校ですから、担任を持って国語も、算数もなんでも教えていましたよ」と森脇さん。「その後は、高森台中学校、鷹来中学校、最後は松原中学校。14年間教員を続けました。当時はやんちゃな生徒が多くいましたが、今でも付き合いが続いています」と懐かしそうに語ってくれました。一方で、「教員をしながら毎日必ず、夜9時からだいたい深夜2時までは絵を描く時間にしていました。公

募展の出版作品を制作している時は、もつと遅くまで作品に没頭していました」。昼間は教員、夜間は日本画の制作と精力的に活動する森脇さん。当時の校長先生をはじめ、応援してくれる方がたくさんいたそうです。

森脇さんは教員になってからも、国内有数の公募展である日展と日春展に毎年欠かさず出展し、入選を重ねていきました。やがて生涯の師となる日本画家の奥田元宋氏に出会い、弟子入りします。教えを受けるため、週末を使って月に数度、春日井市から東京都内まで奥田氏の元に通いながら画家として腕を磨いたのだそうです。

【巻頭特集】

春日井市 文化・スポーツ都市宣言記念事業 春日井市ゆかりの日本画家

森脇正人

日本画家の森脇正人さんは、画家志望だった母親の影響で幼い頃から絵画教室に通う芸術少年でした。2016年には改組新第3回日展文部科学大臣賞を受賞するなど、有数の画家になった森脇さんですが、実は約30年前には、春日井市内の小・中学校で教員をされていました。そんな森脇さんに春日井での思い出や、11月23日から文化フォーラムで開催される展覧会のことをお伺いしてきました。

日本画家：森脇 正人



「虚寂(こじゃく)」
2016年 改組新 第3回日展 文部科学大臣賞

春日井市に支えられ、本格的に画家の道へ

私生活では教員の奥様と結婚、家族を持ちました。念願のアトリ工付きの自宅を東野町に構え、すっかり春日井市に根付いた頃、森脇さんに上京の転機が訪れます。

尊敬する師に認められ、プロの画家として挑戦してみたいという気持ちはあるものの、大切な家族のことを考え、二の足を踏んだそうです。そのとき背中を押したのは奥さんの「すぐに行きなさい」という一言でした。家族の応援を得た森脇さん。39歳でプロの画家の道を進む決心をされたそうです。とても心温かい師の奥田氏でしたが、仕事も家も何もかも捨てて

上京する森脇さんのためにしてくれたことがあります。プロの画家として食べていけるように、後援会を組織するための『趣意書』を書いてくれたんです。もう字が薄くなってしまっていますが、私のかけがえのない宝物です。

そのときに組織された後援会が、森脇さんの「森」と春日井市の「春」から名付けた「森春会」(しんしゅんかい)。森脇さんの地元の名古屋市でも、活動拠点の東京でもなく、春日井市の有志100名で組織されました。創作活動に専念することができた森脇さんは、期待に応えて素晴らしい作品を生み出し、

上京した翌年には公募展の評議員に選出されるなど目覚ましい活躍をされました。それから約30年、日本を代表する日本画家になった現在でも森春会との交流を大切にされています。そんなゆかりのある春日井市で、過去にも回顧展を開催したり、代表作品を市に寄贈したりと、積極的に文化活動をされています。



11月23日から、展覧会「森脇正人―生の鼓動を描く」が春日井市の文化・スポーツ都市宣言記念事業として開催されます。「日本画」と言うとは何か、敷居が高くて、鑑賞するのもついつい肩に力が入ってしましますが、「絵の世界の基本は観ることです。たくさん作品を観ることで、感じ方を学ぶことができるのです。多くの作品を観るうちに自分の中で好きなものがわかってくると思いますよ」と森脇さん。今回の展覧会では、絵を描き始めたばかりの頃の作品から、最新作まで50を超える作品が展示されます。教員時代の教え子が病気で亡くなったことがきっかけで「生と死」を意識して描いた『別れの歌』。師の奥田氏に「そのテーマはよくない」と言われる

『森脇正人―生の鼓動を描く』

も、描かずにはいられなかった『閨』。気軽に踏み入れた中国で魅せられた山村民族の美しさや悲しみを表現した作品の数々。森脇さんの画家としての生き様を垣間見ることのできる展覧会になっています。展覧会初日には、森脇さんも来場され、ギャラリートークを行います。それぞれの作品や日本画について、ご本人による解説を聞きながら作品鑑賞できるチャンスです。ぜひこの機会に日本画の世界に触れてみませんか？

取材・文/盛川幹人 撮影/小橋元気 デザイン/魚住亮次



「一雨」
2012年 第44回日展

展覧会

森脇正人―生の鼓動を描く

期間：平成29年11月23日(木・祝)～12月10日(日) ※月曜休

時間：10:00～16:30(入場は16:00まで)

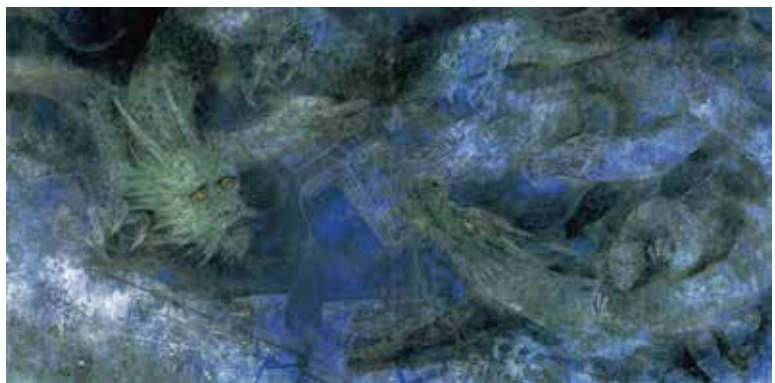
会場：文化フォーラム春日井・ギャラリー

料金：無料

主催：春日井市、春日井市教育委員会

初日10:15から

本人によるギャラリートーク(無料)



「龍図I(蒼)」 2008年